

## 【キーワード】

〔施設種別〕  高齢者施設  障がい者施設  子ども施設  住宅 ( )  
 〔運営主体〕  市区町村  法人  NPO  個人 (補助金)  内閣府  国土交通省  厚生労働省 ( )  
 〔建物形式〕  1棟単体型  複数棟集合型  団地型 (建物状況)  新築  増築  改修  一部改修  既存  
 〔対象者〕  高齢者  障がい者  子ども  ファミリー  多世代



写真1. 施設入り口を見る

「高齢者や障がいのある方にとって」「森林を大切に思う者にとって」という理念のもとに北海道当麻町の地で活動を行っている社会福祉法人当麻かたるべの森。この「くるみなの木遊館」では“木育”をテーマに障害のある方への就労支援が行われ、地域の芸術の活動場として開かれています。木の温かみが感じられる空間の中で芸術を介して多世代が関わりあえる施設です。

## ■施設概要

所在地：北海道上川郡当麻町6条西4丁目

施設種別：木育活動拠点施設

木工体験研修施設（知的障害者を主とする）

木材乾燥施設

運営：社会福祉法人当麻かたるべの森

設計：株式会社 山下設計

敷地面積：8,665.29㎡

建築面積：1,207.80㎡

延床面積：1,147.74㎡

構造・階数：木造（在来軸組工法、準耐火構造）

地上1階

## ■運営背景

当麻町の木育推進拠点施設「くるみなの木遊館」は、当麻町のまちづくりのテーマ「木育」「食育」「花育」のうち、「木育」を担う中心的な施設として計画された。当麻町の豊かな森林資源を「木育」を通して生かすことで、町産材の地産地消への理解や基幹産業である林業の振興そして木工芸術とその教育による子供を中心とした多世代の関わり合いを目指している。というのも木育等のまちづくりのテーマは、当麻町の地域再生計画「木でつなぐ輝くわがまち創造計画」の中で、町内人口の減少と並行して、林業においても課題が発生しており、人工林については樹齢50年を経過し成熟期を迎えていることか



写真1. 周辺状況 (googlemap より)

施設の周辺は田畑が広がり、住宅群は点在している。またほかには、当麻中学校やデイサービス施設がある。

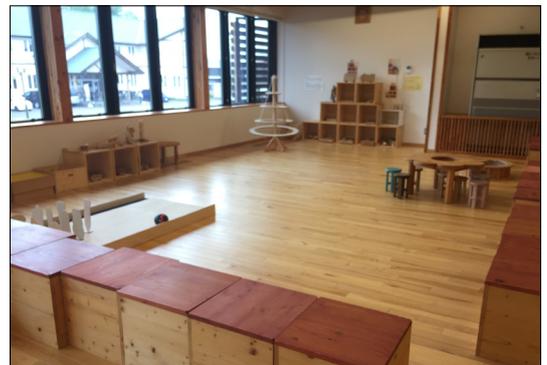


写真2. 木育広場幼児コーナーの玩具

ボックス型の椅子が領域を設定している。ボックスは開閉可能であり、様々な用途に使う事ができる。

参考文献

- 1) 当麻町地域再生計画  
「木でつなぐ輝くわがまち想像計画」  
平成 27 年 6 月 参照 平成 30 年 9 月
- 2) 株式会社コーエキ HP 施工事例  
([http://www.koeki.jp/examples/post\\_19.html](http://www.koeki.jp/examples/post_19.html))  
参照 平成 30 年 9 月
- 3) 社会福祉法人当麻かたるべの森 HP  
(<http://katarube.jp/facility/kurumina/>)  
参照 平成 30 年 9 月
- 4) くるみなの木遊館 パンフレット  
参照 平成 30 年 9 月

ら、森林のもつ水源涵養機能や災害防止機能が低下している、つまり町産材の有効活用ができていない状況にあった。このような状況から住み慣れた地域での若者の雇用就労の場や子育て支援の整備や高齢者の生きがい対策雇用への支援を行うことで若者が安心して結婚し子育てができる環境を整備する必要があり、当麻町ならではの子どもを中心とした「食育」「木育」「花育」による心の教育を推し進めるソフト事業展開を図った。それらの活動拠点施設や住宅等の建築物から家具や玩具まで間伐町産材を積極的に使用することで、当麻型の超高齢化・人口減少社会における持続可能な地域の形成を目指そうとしている、というものである。

■運営内容と建築計画

上記の背景から、くるみなの木遊館では、当麻町での木育を担う施設として①「木育広場での木育の推進」②「障害を持つ方への就労の場」③「木材加工、福祉学生の研修」の3つの機能を持っている。①の木育広場では年間8千人の来客数を想定した計画だったが、初年度で

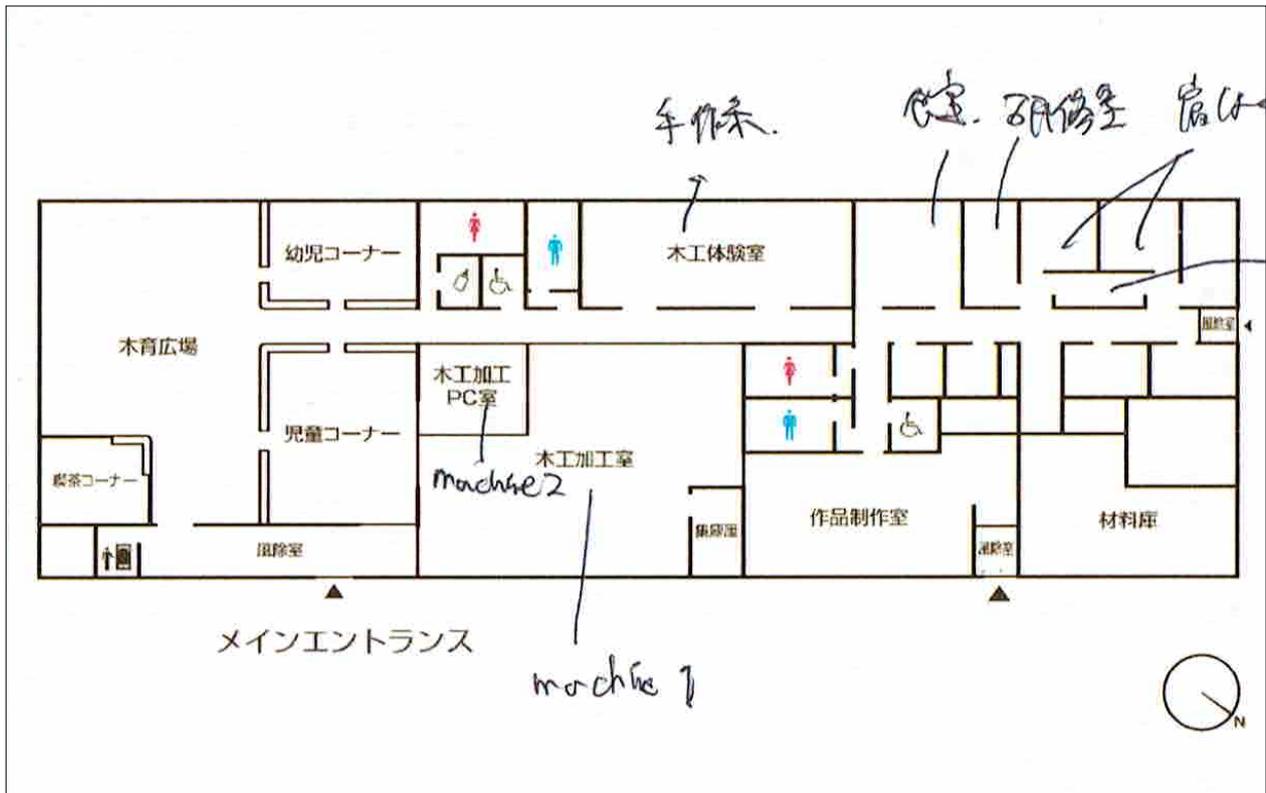


図1. 施設間取り図

子どもから高齢者も含めた使いやすさを求めた施設となっており、段差のない出入口やわかりやすい内部構成、サイン表示など、多世代を想定した平面計画となっている。

約2万4千人と想定を超えるものだった。ここ2年間では大型から小型までの家具が段々と増えている。というのも平成28年に「日本財団」研究費助成事業を受けて新たに「滑り台」「ままごとハウス」「ウッドカー」の3つの大型家具を自作開発した。事業選定された理由としては、くるみなの木遊館が保育・介護研修等の福祉施設であること、また家具の自主制作機能をもち、障害を持っている方でも遊べる家具の開発を行う木育を推進する施設であることが選定の要因であった。3つの家具を開発するにあたっては道内の保育施設へのアンケート調査を行い(約220件の回答)、その中で特徴的な回答をもとに、これら3つの家具を試験的に開発する事になった。アンケートの内容としては、木製家具が高価なこと、大型家具の置き場所の劣位性、メンテナンスが困難というものが挙げられた。これらをもとに滑り台では各接合部をボルトにすることで、施設ごとに調整ができるものにした。ままごとハウスでは車椅子でも入れるように高さ調整と段差解消等を行った。

次に②③では建物の中央、木工加工室や木工体験室が中核を担っている。地元の木材を加工する高度な木材加工機械設備を導入し、遊具や家具等の木工製品を製造することを目的に、作業を行う知的障がい者施設、地場の木材を製材する森林組合、独立行政法人林産試験場や大学等の産学官の連携により行われている。就労を受ける方は、知的障害者であり他のスタッフの介助がありつつも、木工技術を磨き木育広場を主に木工製品を作っている。そのような製作風景が隣接する木育広場の室内ガラスを介して見えることで、共生的観念の醸成を狙っている。木工加工室、作品制作室に設置されている加工機械設備としては、NCルーター・パネルソー・ボール盤・木工旋盤・自動かな盤・ワイドベルトサンダー・集塵機・バンドソー・テーブルソー・リップソー・集塵機・レーザー加工機・UVプリンター・糸のこ盤・卓上ボール盤・卓上ベルトサンダーがある。特にNCルーターとレーザー加工機は木工開発の領域を広げている。近隣中学校の自分の机の天板を自主制作し、卒業する時にはそれらを記念品として加工し持って帰るといった特長的なイベントに



写真3. 木育広場児童コーナーの大型玩具

児童コーナーには大型の玩具が配置されている。このコーナーに木工加工室を望める窓が設置されている。



写真4. 木工加工PC室 レーザー加工機・UVプリンター

PC上のデザインデータを木板等に刻み込むレーザー加工機や板面にデザインプリントを貼り込むUVプリンターが配置されている。



写真5. 木工加工室のリップソー

加工材を縦に挽き割る機械。自動送り装置がついていることから精密な直線切断ができる。大きな家具開発を可能にしている。

参考文献

- 1) 当麻町地域再生計画  
「木でつなぐ輝くわがまち想像計画」  
平成 27 年 6 月 参照 平成 30 年 9 月
- 2) 株式会社コーエキ HP 施工事例  
([http://www.koeki.jp/examples/post\\_19.html](http://www.koeki.jp/examples/post_19.html))  
参照 平成 30 年 9 月
- 3) 社会福祉法人当麻かたるべの森 HP  
(<http://katarube.jp/facility/kurumina/>)  
参照 平成 30 年 9 月
- 4) くるみなの木遊館 パンフレット  
参照 平成 30 年 9 月

対しても、これらの加工機械が使用され、関わり合いの機会となっている。木工体験室では、フォトフレームや箸作り等の木工体験が行えるよう小型の加工機械を配置しているほか、食堂や研修室、宿泊室を隣接させることで若者の技術研修のための宿泊研修の機能を有している。材料庫では、カラマツやトドマツ等を高温木材乾燥機による機械乾燥させ、乾燥させた町産材を上記①および②で活用し、木材の地産地消を図っている。



写真6. 木育広場から木工加工室をみる  
遊具で遊んでいる情景のなかで自然に加工している姿が目に入る、そんな窓になっている。



写真7. 日本財団研究費助成での滑り台  
接合部をボルトの組み立て式にすることで、施設規模に応じて大きさを変えられる様式になっている。



写真8. 日本財団研究費助成でのウッドカー  
レール上を前後に動かすことで遊ぶウッドカー。木製遊具の可能性を大きく広げる試験的開発の一つである



写真9. 日本財団研究費助成でのままごとハウス  
車椅子が入ることを前提に、机の高さ設定やままごと棚の配置が設定されている。この遊具で共生の状況を作る事ができる可能性を持っている。c